

名古屋の産業 外国人を積極登用

教室が足りない

中部地方唯一の小中高一貫のインターナショナルスクール「名古屋国際学園」(NIS、名古屋市守山区)の児童・生徒が急増し、校舎がパンク状態に陥っている。背景に自動車や航空機産業を中心とした海外人材の積極登用があり、校舎増築に迫られている。「中部経済の発展に必要な不可欠な社会基盤だ」として地元経済界も支援に乗り出した。

【齋川暉、写真も】

現在、NISには37 練習する場所や、教師国籍の幼稚園〜高校のの会議室もない。安全児童・生徒約490人 面でも心配で、このまが通う。定員限度の3 まででは高レベルの教育50人を大きく超過 を維持できない」と危し、どの教室も机や椅子でいっぱいだ。それでも足りず、グラウンド脇に建つプレハブ造り、天井の低い用具庫を教室として使い当座をしのいでいる。

マシュー・パール校長は「子供たちが歌を

国際学校、経済界が支援



グラウンド脇の用具庫を改築した小さな教室で授業を受ける児童ら「名古屋市守山区」で

トヨタ自動車や、国産初のジェット旅客機「MRJ」の開発を進

める三菱重工業、その関連会社などで働く外国人社員の子どもたち

た教育プログラム「国際バカロレア」(IB)認定校で、外国人からの信頼も厚い。

だ。海外企業や外国人が進出先や赴任先を決める際、子供の教育環境の充実が重要な判断材料の一つになるとい

う。NISは、海外の大学入学資格を取得できる国際的に認められ

最大定員を550人規模に拡大するため、敷地内に4階建て延べ約3000平方メートルの校舎増築を計画。音楽室や理科室、多目的ホールなどを整備し、20年夏の完成を目指す。総工費は16億3000万円、地元企業や自治体などに約4億円の寄付を募っている。

中部経済の発展を下支えするNISの危機に、中部経済連合会や名古屋商工会議所など地元経済4団体も支援に乗り出し、会員企業に寄付を呼び掛ける異例の措置を取った。

マシュー校長は「幅広いニーズに対応し、これからも海外から選ばれる学園にしていくために応援してほしい」と話している。